

平成30年度第3回花巻市行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

平成30年10月3日（水） 午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所

花巻市役所 3階小会議室

3 出席者

(1) 委員 6名

堀籠義裕委員（部会長）、青木明希委員、久保田廣美委員、福盛田弘委員、  
佐藤洋子委員、曾我紀子委員

(2) 説明者（施策主管課） 1名

地域づくり課：中村光一課長

(3) 事務局（施策及び事務事業評価担当課） 2名

秘書政策課：高橋誠課長補佐

財政課：八重樫雅喜課長補佐

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「コミュニティ会議の基盤強化」について評価を行った。

(1) 施策主管課による説明、質疑応答

(2) 委員会の評価結果集約

5 議事録

(1) 施策主管課による説明、質疑応答【主な意見・質疑等】

福盛田弘委員：コミュニティ会議の活動内容、交付金の使途の市に対する監査はあるか？

中村光一地域づくり課長：各コミュニティ会議で監査している。市は3月に適正に使われているか確認し、おかしいところは指導する。使っていけない食糧費などについては、事前にコミュニティ会議にお知らせしている。

福盛田弘委員：あるコミュニティ会議では会長、副会長に月額3万円が支払われている。勤務実態から考えると割高であり、人件費に使うより他の事業に使ったほうが良いと考える。しかし、このことは役員会では面と向かって話すことができない。

中村光一地域づくり課長：それぞれのコミュニティ会議の方針である。最初、会長は無報酬であったが、支払うようになった。事務員については指定管理の代金から雇用している場合もある。違反していれば指導するが、範囲内であれば、会や地元の方の総意で実施している。コミュニティ会議は市の下部組織ではな

い。

福盛田弘委員：報酬が高いと考えるが、役員会等では言えない。

中村光一地域づくり課長：報酬を支払っているということは何か理由があると思う。やる人がいないとか、ボランティアでは無理とか、お土産を包む必要があるとか、それぞれの会の事情があると思います。

福盛田弘委員：事業を申請すると、予算がないからできないと言われることがある。勤務実態に比べ、疑問を感じる。

久保田廣美委員：成果指標達成状況の達成度「A」であるが、施策を構成する事務事業一覧の成果「B」であるので理由を教えてください。

高橋誠課長補佐：事務事業評価シートの成果指標の達成度について、目標値の10%以上の達成で「目標値より高い」となるが、この成果指標では「概ね目標値どおり」となる。そのため施策評価シートの施策を構成する事務事業一覧の成果は「B」となるが、成果指標の達成状況の達成度は目標を超えているので「a」となる。

久保田廣美委員：まちづくりアンケート40Pの（意見・提言等一覧）のN0130に「コミュニティの予算で道路の舗装が行われている一方、もっと使用頻度の多い道路は放置されているのは納得できない」とあり、（3成果指標の達成状況の）達成状況に関する背景・要因に「地域住民から挙げられた地域課題のうち優先順位の高いものから事業を採択し、着実に執行している結果と考えられる。」とある。その優先順位を決めるのは、コミュニティ会議の上の人たちと思うが、声の大きい人たちが優先されているという傾向はないか？

中村光一地域づくり課長：そこまでは調査していないが、予算が小さいコミュニティ会議では、ハード事業が欲しくてもできないという声を聞いている。

久保田廣美委員：まちづくりアンケートでこのような問題をあげてきているということは、まだまだ意見を吸いあげていないのではないかと思う。

中村光一地域づくり課長：なかなか普通場で意見をだせないで、ワークショップを取り入れてほしいと考え、3地区でワークショップを開催した。今年は8地区でNPO団体に入っただき、ワークショップを広めていただいている。課題抽出については若い人から意見をもらえるように努めている。

佐藤洋子委員：今年度のワークショップを実施している8地区はどこか？

中村光一地域づくり課長：花南、宮野目、湯口、湯本、笹間、太田、内川目、成島で、手上げ方式で開催している。

佐藤洋子委員：コミュニティ会議への交付金は、規模の大きさに按分しているのか？

中村光一地域づくり課長：均等割50%、世帯割35%、面積割15%で按分している。

佐藤洋子委員：ハード事業が難しいと感じている。

曾我紀子委員：6施策の相互的な評価の課題の「幅広い世代による参加が少ない」とのことですが、何歳くらいの方がよく参加しているのか？

中村光一地域づくり課長：お年を召した方が多く、働いている方の参加は少ない。

曾我紀子委員：高齢者のところに若い人は参加できない。結局、弱者は声を挙げにくいと思うが、どうやって若い人を参加させようと考えているのか？

中村光一地域づくり課長：団体の役員になっていないと、参加していない。PTAなどは、責任感をもって参加している。興味を持つような方法が必要と考え、ワークショップ等の方法をとっている。自分の意見が通れば良いが、意見が通らなければ、参加しなくなることもあるので、その事情を各コミュニティで考えてほしい。

曾我紀子委員：アンケートで、コミュニティ会議とは何だというのがあった。よく聞くことなので、周知したほうが良いと考える。

中村光一地域づくり課長：広報で周知している。模索しながら行っている。

堀籠義裕委員：事務事業一覧の「コミュニティ会議の活動内容の広報」で活動紹介を12回と記載されているが、反響は？

中村光一地域づくり課長：反響は特には。各コミュニティで広報をだしているが、他の地区が見えないということがあり、市ホームページで他の地域のコミュニティ会議の情報を見られるようにしている。それが毎月1回ということで12回としている。全体の地域づくり交付金の使い方を市広報で年1回掲載している。しかし、毎月の掲載は広報紙のスペースが限られており、難しい。

福盛田弘委員：ホームページで見られるとの説明だが、高齢者は見られない。ペーパー方式で情報提供したほうが良い。

中村光一地域づくり課長：コミュニティ会議に行っていただければ、印刷可能である。

福盛田弘委員：そこまで分かっていたらよいが、振興センターまで行けない人もいる。

中村光一地域づくり課長：市広報で今のように年1回まとめる形は可能だが、27会議全部を掲載することは難しい。

福盛田弘委員：振興センターに行けば、印刷してもらえるが、そこまでする人は。

中村光一地域づくり課長：支所、本庁でも印刷可能である。

福盛田弘委員：歩くことが困難な方は、そこまで行けない。ネットを見られる人しか見られない。

中村光一地域づくり課長：いる人、いない人がおり、ゴミになるという人もいる。欲しい方にだす形をとっている。

佐藤洋子委員：交付金について、各コミュニティ会議の監事が監査し、市は監査しないのか？

中村光一地域づくり課長：市は支出内容の確認をする。用途を確認し、指導する。

佐藤洋子委員：市民はコミュニティ会議の総会を見る形となるのか？

中村光一地域づくり課長：代議員制のところがあり、傍聴するところもある。代議員に意見を伝える形となる。

福盛田弘委員：区長会で決定するので、街路灯などは意見の強い人の地区に予算がつくようだ。

佐藤洋子委員：予算の奪い合いがみられる。

福盛田弘委員：行政区長や会長が、現地調査をしているが、意見の強い人のところに予算がつく。役員会で忖度されている。不採択の地区に不満がある。

久保田廣美委員：ファシリテーション研修会に4回コース39名参加とあるが、実人数か？研修後、その方が先にたってファシリテーターとして育っているとか、どのような効果があったか？

中村光一地域づくり課長：登録の方が39名で、その開催回によって欠席がある。メンバーは市民1名、コミュニティ会議20名、市職員18名。コミュニティ会議の中で行っていると思うが、実態はつかんでいない。

久保田廣美委員：研修だけではなく、生かすようにしていただきたい。

青木明希委員：現状と課題の記載について、10年前とどう変わったか？どうなっていくのかが理想かを教えてほしい。

中村光一地域づくり課長：実際、10年前の人が、そのまま役員として残っている。後継者がいないという話が昔からあり、世代交代が進んでいくことが理想と思っている。

福盛田弘委員：10年前と同じ人がやっていると、その方に匹敵するような方はなかなか見つからない。後継者を積極的に育てていく必要がある。

中村光一地域づくり課長：下部組織ではないので言えない。

佐藤洋子委員：若い人が入りづらいので環境づくりが大事。代議員にならないと総会に出られない。そうすると、内容、会自体を知らない人が増えている。若い人たちが入るきっかけがあればよいと考える。

堀籠義裕委員：他に聞いておきたいことはありますか？

佐藤洋子委員：コミュニティ会議をつくったという、そのものの考え方は？市の職員がやるべきものを各地に任せるから、予算を交付しているというのが考えか？

中村光一地域づくり課長：結の精神からです。

佐藤洋子委員：市で関わることを増やすなど、何らかの軌道修正が必要では？

中村光一地域づくり課長：アドバイスは行っているが、指導にするにも気をつかう部分がある。コミュニティ会議から反発があることもある。交付金の使い方を変えるにも困難がある。前々からの経緯があって自主性を重んじてきた。現在、見直しについて検討しているところである。

堀籠義裕委員：時間も過ぎましたので、質疑は終了とします。

## (2) 委員会の評価結果集約【施策評価検証シートの整理】

●「◎前年度評価の振り返り」において前年度の「Check＝評価」⇒「Action＝見直し」が機能しているか

福盛田弘委員：ワークショップの結果がどれだけコミュニティ会議に反映されているか、いかに活用されているかが課題と思う。

堀籠義裕委員：反映状況の1つ目のところで「共有した」とあるところですね。

福盛田弘委員：共有しただけでは不十分と思う。

堀籠義裕委員：今後残されている課題が問題。今後の方向性の1つ目「仕組みを構築した」の反映状況が、「共有した」だけでは不十分であり、構築においてどのような意義があるか記載が必要。

同様に、今後の方向性の2つ目「より一層の地域づくりの推進」が反映状況の2つ目「講演を開催した」では不十分であり、どのようなつながりがあるか、開催した結果、推進する上でどのような意義があったか記述が不十分。加えてどう反映したかが不十分。

今後の方向性の3つ目、「仕組みを構築する」について、反映状況の3つ目で、「引き続き検討していく」だと、「構築」されていないことになる。

そもそも今後の方向性の内容が、単年度の実現は難しく、時間をかけていく内容となっている。今後の方向性の書き方を単年度、複数年度に分けるものとするか、評価検証シートが単年度であれば、単年度の方向性の書き方にして、単年度の対応の書き方にすべき。反映状況「仕組みを構築する」は、短年度では困難と思われる。以上4点を部会の意見とします。

会の意見としてよろしいでしょうか？

複数の委員：よろしいです。

● 「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか

久保田廣美委員：新たに取り組むべき事業として、「総合的な懇談会の開催」とあるが、具体的なものがよくわからない。もっと具体的に記述すべき。

堀籠義裕委員：「記載をもっと具体的な記述にすべきである。」ということ部会の意見としてよろしいか

複数の委員：よろしいです。

堀籠義裕委員：評価シートの「現状と課題」で各層の参加が課題としているが、事務事業でこの点を対応しているのか明確になっていない。また、先ほどの説明でもうまくいっていないような話であった。参加促進の取組を、分かるように説明すべきと思う。このことも部の意見としたほうが良いと思う。

複数の委員：そうです。

● 「3 成果指標の達成状況」の「(達成状況に関する背景・要因)」の分析が的確に行われているか

久保田廣美委員：施策全体はAであるが、事務事業一覧の評価がBからAの評価になるようにどうすれば良いか考えたほうがよい。

堀籠義裕委員：加えて施策の向上を図るための分析が必要と思う。以上をまとめて部の意見とします。

● 「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか

福盛田弘委員：ワークショップでいろいろな世代の方が来たのか？今までやなかったことをやることで、ワークショップで多くの世代が参加したのかわからない。

堀籠義裕委員：今後の方向性を書く時に、昨年度の取組の結果を踏まえて、書いていけば今のようなご意見は出てこないと思う。逆に言うと課題の記述で、前年度の

取組の記載が十分ではない。

久保田廣美委員：今後の方向性で「ワークショップ等の対話を取り入れる仕組みを構築する」とあるが、「前年の評価の振り返り」と同じ内容となっている。次年度も同じになるかもしれない。

堀籠義裕委員：今後の方向性に、前年度の振り返りより、1歩進めるような記載を示すべきであるという内容を意見とします。先ほどの複数年かけてやるべきことを書くのはおかしいという話につながっていますので、部会の意見として取り入れるようにします。

青木明希委員：交付金で追加交付して、返納した原因がよくわからない。

堀籠義裕委員：課題の3つ目のところのことですね。交付金の在り方の検討とあるが、なぜ検討が必要なのか、背景にある問題点の説明がよく分からないので、明記すべき、ということ意見をしたいと思います。

八重樫雅喜課長補佐：今の意見にあった3コミュニティ会議についての補足説明ですが、簡単に説明すると、追加交付を申請したが、使えきれなかったために返納し、次年度である30年度に、返納分の交付を受ける権利があるので、追加予定となっている。使う目的がないものを申請するのはおかしいということも含めて、今後の在り方を検討する必要があるという意味と、思います。H28年度に市に返納する制度に変更していますが、記述が足りない部分があったと思います。

●「シート記載内容全般について」

福盛田弘委員：記載が分りやすくはない。言葉足らずのところがある。「やりました」で終わりとなっており、結果が分からない。

堀籠義裕委員：最初の記載の「共有した」「開催した」のところの説明ですね。個人的には今後の方向性で単年度か複数年かを区別したほうが良い。この2点を部の意見としたいと思います。よろしいでしょうか。

複数の委員：よろしいです。

堀籠義裕委員：検証シートは私のほうで清書して報告します。